

【論考】

アナログ文具の魅力

奈良女子大学 文学部

松本帆由

-目次-

1. はじめに
2. 文具業界:売れ行きの現状
3. アナログな文具の魅力
 - 1) デジタル機器との比較
 - 2) 大学生とアナログ文具(1):調査とその結果
 - 3) 大学生とアナログ文具(2):考察
4. おわりに

1. はじめに

現代社会は、身の回りのさまざまなモノやサービスがデジタル化されているデジタル社会である。そのなかで文具もデジタル化の影響を強く受けているイメージを持たれているだろう。たしかに、デジタル機器を使うことで、今までアナログな文具で行っていた作業を効率よく手軽に行うことができるかもしれない。しかしアナログな文具の売り場がなくならないどころか、より充実してきたように見える店舗もある。

アナログ文具にはデジタル機器にはない魅力があり、いつまでも使い続けられていると言えるのではないか。本稿では、主にデジタル機器との比較を通して、デジタル社会の中でのアナログ文具の存在に注目してみたい。

なお本稿では、パソコン・スマートフォン・タブレットなどをデジタル機器としたうえで、従来の文具、例えば小中高生が学校生活で使用するような文具をアナログ文具とする。電気を用いていても、情報を電子的に処理していない場合（電動鉛筆削りなど）は、アナログ文具である。

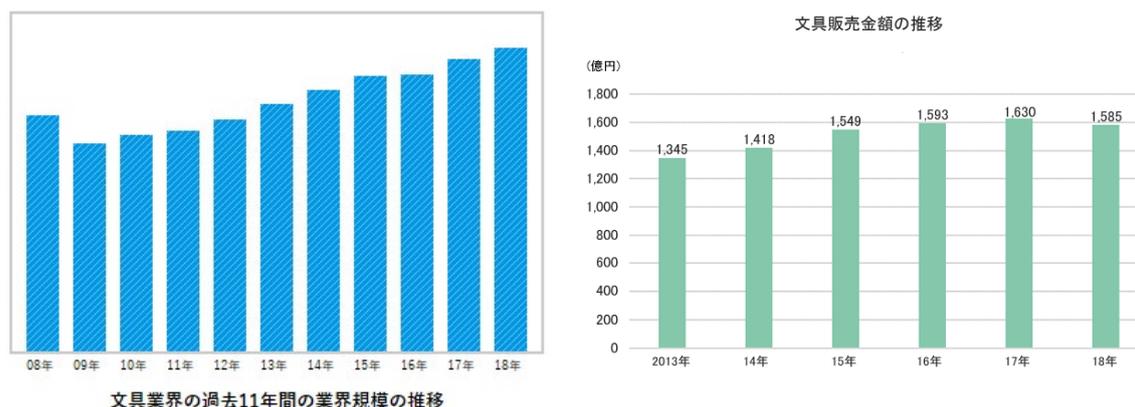
2. 文具業界：売れ行きの現状

前述したとおり、アナログな文具が使われる機会は減ってきているというイメージを持っている人は多いだろう。たとえば、スマートフォンやタブレットを利用して記録ができることで、ノートとペンを使って記録することがなくなる「ペーパーレス化」は、

文具のデジタル化のなかでも一番に浮かんでくる。

それでは実際に文具の売れ行きは、IT技術が進歩するにしたがって減少しているのだろうか。気になった私は、まず文具業界の業界規模や市場の現状などを調べてみることにした。

・「文具業界の現状と動向（2019年版）」より



上記のうち左図は、主要対象企業 24 社の売上高の合計の推移を表している。2018 年ー2019 年の業界規模は 2 兆 1044 億円となっている。

右図は、経済産業省の生産動態統計調査より、文具販売金額の推移を業界動向サーチが作成したものである。表には載っていない 2019 年は 1582 億円となっている。

これらのグラフを見て「あれ？」と思った方も多いのではないだろうか。文具は一概に売り上げが減少し続けているとは言えないのだ。デジタル化、ペーパーレス化が進む中、個人の文具需要が高まっていると言われていて、市場を牽引していると推測される。また、文具の販売金額の増減も商品ごとに異なっている。たとえば 2018 年ー2019 年においては、「鉛筆」「シャープペンシル」「修正液」などは販売金額が減少したが、「ボールペン」「マーキングペン」などは増加していた。さらに商品ごとの販売金額の増減も毎年変化しているため、どの商品が売れなくなっているなどと予想するのは簡単ではないと考えられる。

3. アナログな文具の魅力

1) デジタル機器との比較

ここからはアナログ文具の具体的な利用について、主にデジタル機器と比較しながら考えていく。

アナログ文具の役割を担うものとして、スマートフォンやタブレット、パソコンなどがしばしば挙げられる。これらのデジタル機器が使用される一番のメリットは、文具の

重要な作業である「記録」や「受け渡し」をより短時間で正確にできることだろう。このメリットによって、デジタル機器は主に会社における事務用品、また日常生活におけるコミュニケーションツールとして多くの人に重用されている。一方で、学校生活においてはまだまだ子どもたちはアナログな文具を使っているケースが多い。そして私たち大学生は、アナログ文具とデジタル機器の使用変化において、ちょうど時代の移行期にいるのではないかと考えられる。大学生のアナログ文具の使用については後ほど記述させてもらうことにして、まずはアナログ文具の魅力について見ていきたい。

デジタル機器の大きな魅力が時短と正確性であるとするれば、アナログ文具の魅力は一体何なのだろう。この点を探るべく、以下では株式会社ロフトのオフィシャルウェブサイトに掲載の『コトキジ』より、手帳業界の識者3者の鼎談を見ていく。

対談したのは、ステーションナリーディレクターの土橋正氏、手帳ライフ研究家の藍玉氏、ロフト商品部文具領域部長の古東美幸氏である。そこから見えてくることを筆者なりにまとめると、次のようになった。

- ・3者の手帳の使い方・選び方は、自分が毎日書くときの量とサイズが合っていること、カレンダーを見るときに予定を見渡す範囲（1日か1ヶ月か1年か）を考えてみること、メモ部分のデザインは自分の目的を考えて選ぶことなど三者三様であり、またツウの人はいくつかの手帳を使い分けている。
- ・手で書くメリットは記憶に残りやすいこと。キーボードや画面をタップして打つのは作業、文字を書くのは体験という考えがあり、また書く手帳は書いた場所が存在する。
- ・ToDo専用の手帳をマーカーと併用することで用事を忘れることが減った。
- ・手帳の未来について、自分の究極の一冊が作れる時代が来るべきである。今のシステム手帳はシールを貼ったりカスタマイズをしたりすることでオリジナル性を出しているが、今後はメーカーやお店などで自分専用の手帳を作ってもらいたい。

株式会社ロフトオフィシャルウェブサイト

“コトキジ KOTOKIJI” 2016. 11. 11

「アナログ手帳の魅力とは。だから毎日、記したくなる。」前後編より

筆者（松本）まとめ

これらのことからアナログ文具の魅力は、デザインを自分の好みや目的によって選んだりカスタマイズしたりできること、自分の手で書くことによって記憶や思い出に直結しやすいことであると考えられる。

2) 大学生とアナログ文具(1): 調査とその結果

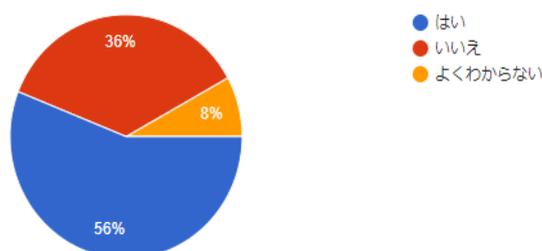
前項1)のなかで、大学生はアナログ文具とデジタル機器の移行期にあたるという仮説を立てた。実際に私自身は、大学生になってからパソコンを使う機会が多くなり、紙とペンの出番が少なくなってしまうと感じているが、周りの大学生も同じように感じているのではないかと考えた。そこで奈良女子大学の本共同研究参加者や私の友人たちを中心に、大学生のアナログ文具の使い方やアナログ文具への意識を調査してみることにした。

〈調査方法〉

実施期間：2020年7月15日～7月21日／調査対象：奈良女子大学生（主に本共同研究参加者）／実施方法：グーグルフォームによる質問紙調査／有効回答：25票／内容：計5問（選択式が2つ、記述式が3つ）と自由記述欄を設けた／備考：対象者数の限られた試行的なゼミ内調査であるため、結果の比率は目安にすぎない。しかし各記述部分への回答は現代の大学生の意識などを推し量るうえで一定の参考になるものと判断できる

〈結果〉

Q1：大学生になってからアナログ文具を使う機会が減ったと感じたことはありますか
回答 ・はい56% ・いいえ36% ・よくわからない8%

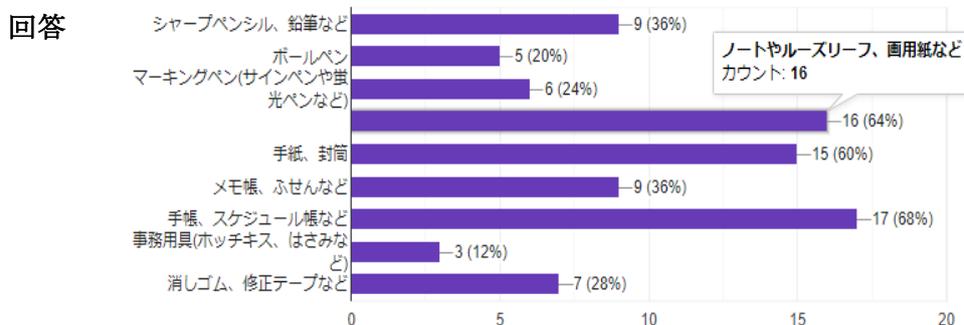


Q2：1で「はい」と答えた方にお聞きします。特に（使う機会が減ったと）実感する文具がありましたら簡単にで良いので教えてください

回答

・シャーペン	4人
・鉛筆	3人
・カラーペン（赤ペン）	6人
・名前ペン	1人
・消しゴム、修正テープ	3人
・ノート	1人
・のり	1人
・定規（三角定規）	2人
・コンパス	1人
・全般	1人

Q3：デジタル化の影響を受けていそう、あるいはこれから受けていきそうだと考えられる文具を選んでください（複数回答可）



Q4：デジタル機器と比べたアナログ文具の良いところ、またはお気に入りのアナログ文具などがありましたら自由に書いてください

回答

- ・単語を覚えるとかはシャーペンでノートに書く方が覚えやすい。マークシートを塗るときは鉛筆の方が楽
- ・慣れている、壊れてデータが飛ぶ心配がない
- ・使い慣れているところ。お気に入りはシャーペン
- ・ペンやふせん、マスキングテープの種類やデザインの豊富さはアナログならではのと思います
- ・万年筆や絵具、紙など、実際の書き味やインクの色に味がありデジタルで再現しきれない部分に良さがあるものはこれが優れていると思います
- ・デザインに様々な種類があり、それを選んだり集めたりするのが楽しいところ
- ・使い方が難しくない
- ・自分の筆跡など個性が出る。手紙やメモなどは自分の手で書くことで気持ちがこもるように感じる
- ・タブレットに電子ペンで書くというより紙に書くという作業が好きなのでアナログ文具はいいなと感じています
- ・好きな色で、好きな字体で、好きな場所に書ける
- ・マーカーの方がデジタルでマーカーを引くよりも自分がチェックしている感じがする
- ・書いたものがすぐに消えないところ
- ・鉛筆や消しゴムの減り具合を見ることで、自分が勉強を頑張ったということを確認できるのが良いところだと思う
- ・目が疲れにくい。デザインが素敵なものが多い
- ・殴り書きができる

- ・万年筆とガラスペンがとても好きです。インクの色が乾く前と乾いた後の色の違いや独特の書き心地が好きです

Q5：アナログ文具とデジタル機器の使い分けについてお聞きします。利用目的が同じでアナログ文具とデジタル機器のどちらとも使い分けている場合があれば教えてください

回答

- ・紙にペンでメモして、さらに写真を撮る
- ・手帳とスマホのスケジュールを両方使っている
- ・暗記したいところを写真に撮って、紙を手持ちづらいときに使う
- ・予定は基本アナログの手帳で管理して、その中でも大事な予定は前日にスマホアプリでリマインダー通知が来るようにしています
- ・ホワイトボードや黒板を写真に撮る
- ・パソコンから印刷した論文をマーカーでチェックして要約や感想は Word に記録する
- ・パスワードはメモとスマホのメモ機能に記録する
- ・紙に鉛筆（ペン）で書いて、スキャンする
- ・趣味で文章を書くときはガラスペンや鉛筆で原稿用紙に書き、添削した後に Word に打ち込む

3) 大学生とアナログ文具（2）：考察

前述の結果を踏まえて大学生のアナログ文具への意識を考察していく。

■ Q1について

アナログ文具を使う機会が減ったと感じた人は半数を超えた。しかし、使う機会が減ったと感じない人も三分の一程度いる。この結果は何を意味するのか。

調査前の仮説の段階では、はいと答える人が6~7割ほどいると考えていた。なぜなら、紙とペンで勉強をする高校までと比べて、大学生は明らかにパソコンなどを使った書き物の時間が増えているはずだからだ。しかしいいえと答えた人が仮説より多かった結果を踏まえると、この質問において鍵を握るのは、文具の使用時間だけではなく文具を使用する機会の増減であると考えられる。つまり、勉強をするという同じ動作において半数の人はパソコン派、約3割の人は手書きもしくは併用派というように、2つの使用形態があることが見えてくる。

■ Q 2 について

使う機会が減った文具として、シャーペンやカラーペンなどの筆記具が多く挙げられている。理由としては、レポート作成などの書き物ではパソコンを使う機会が増えたという意見が多かった。このことは、Q1 における仮説やパソコン派が半数を超えていることの裏付けとなるだろう。また定規やコンパスと答えている人たちは、数学をやることがなくなったからという理由を述べていた。今回の調査では本共同研究参加者が回答者のほとんどを占めていたため、文系の学生が多いと考えられる。理系の学生にも調査を行えば今回とは異なる結果が出るかもしれない。

■ Q 3 について

50%を超えた項目が「ノートやルーズリーフ、画用紙など」「手紙、封筒」「手帳、スケジュール帳など」となった。Q2 では筆記具が多かったのに対して、Q3 では書かれる紙製品が多かったところが興味深い。さらにこの結果は、Q5 のアナログ文具とデジタル機器の使い分けにも関連していると考えられる。詳しくは Q5 の考察で記述させてもらう。

■ Q 4 について

調査前の仮説の段階では、「デザインの豊富さ」や「手書きのあたたかみ」などの回答を想定していた。また、手書きのあたたかみと関連する回答として、「自分の筆跡など個性が出る。手紙やメモなどは自分の手で書くことで気持ちがこもるように感じる」など、“自分”で書くことをアナログ文具の長所として重視している人が多かったことに注目した。自分の手で書くことは、時には文字の癖であったり書き間違いがあったりすることもあるだろう。しかしそれも含めて自分で書くことが手書きのあたたかみであり、さらに前項1)でも述べたように記憶や思い出につながるので、正確性が長所であるデジタル機器とは異なる長所であるといえるだろう。

■ Q 5 について

回答を一通り見ていると、スケジュール帳やメモなどを使用する際にスマホで保存したり通知をつけたりするという併用の仕方が多い。その他の回答で紹介されている文具も、ほとんどが紙製品であることがわかる。ここで Q3 の考察を踏まえると、現在紙製品はデジタル機器と併用されていることが多いため、デジタル化の影響を受けている、あるいはこれから受けていきそうだと多くの人に考えられているのではないか。

■ 全体について

大学生に対する調査からも、アナログ文具の魅力のひとつは、前項1)と同じように手書きのあたたかみがあることだといえる。それに加えて大学生のアナログ文具とデジ

タル機器の使い分けや、使用変化の意識を考えると、アナログ文具の魅力はデジタル機器と比較している時だけではなく、合わせて使用する時にも生まれているといえるかもしれない。“自分”や“個性”を表現できるアナログ文具と、“時短”や“正確性”が長所のデジタル機器は、お互いの足りない部分を補完し合える存在といえるだろう。

4. おわりに

ここまで主にデジタル機器とアナログ文具を比較しながらアナログ文具の魅力を探ってきた。デジタル化が進んでいると言われてる中で、多くの人がアナログ文具の魅力を感じて使い続けたりデジタル機器とうまく使い分けたりしている。大学生への調査の中では「基本手書きが好きなのでアナログ文具は今後も使い続けるだろう」「変にどちらかを信奉するのではなく、それぞれの強みを生かした活用がなされてほしい」という声も聞こえた。しかし今回調査が行えたのは、文具の使用変化が起こっていると考えられる大学生のみであり、学生よりもデジタル機器が身近になるであろう社会人の声を聞くことができなかった。より大規模な調査を行ってさまざまな年代や職種の人について把握することができれば、より精密にアナログ文具の使用の実態を解明できるであろう。

*

今回は主にアナログ文具の魅力を考えてきたが、デジタル化が加速している今、アナログ文具の魅力と兼ねそろえたデジタル文具（デジアナ文具）の開発が進んでいることも事実である。これから先のデジタル社会のなかで、アナログ文具はどのような存在になっていくのだろうか。まだまだアナログ文具から目が離せない。

【参考ウェブサイト】

- ・ 業界動向サーチ：文具業界
<https://gyokai-search.com/3-bungu.html>
- ・ 経済産業省：生産動態統計調査 統計表一覧
https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/seidou/result/ichiran/08_seidou.html#menu8
- ・ 株式会社ロフト：コトキジ「アナログ手帳の魅力とは。だから毎日、記したくなる。」
前編 <https://www.loft.co.jp/kotokiji/detail.php?id=68041>
後編 <https://www.loft.co.jp/kotokiji/detail.php?id=68051>

■ 本稿書誌情報 ■

『文具に関する論考と企画：奈良女子大学文具ゼミ 2020』

〔2020年度「文化社会学演習」WEB版報告書〕 <https://bungu-narajo.org/>

2020年8月1日 編集・発行 国立大学法人奈良女子大学文学部

人文社会学科文化メディア学コース 小川伸彦研究室編

〒630-8506 奈良市北魚屋西町 E-mail ogawanobuhiko@cc.nara-wu.ac.jp